

第3学年 社会科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「〈せんたく〉農家の仕事」 教材名「〈せんたく〉農家の仕事」

2 単元の目標

地域の農家は土地や季節に合わせ、生産や出荷の工夫をしていることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(2))

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の農家は土地や季節に合わせ、生産や出荷の工夫をしていることを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。	①〈せんたく〉農家の仕事の学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「〈せんたく〉農家の仕事」は、第3学年の(2)を手掛かりに、人々の働きと社会の仕組みを調べる単元である。中心となる理解は、地域の農家は土地や季節に合わせ、生産や出荷の工夫をしていることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、地域の作物の問いを立てるところから始め、農家と地域の関わりを説明する活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には農家と地域の関わりを説明することで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本時では「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」を中心の問いに据える。これまでに調べた資料を使って、次の比較と整理を行う。地域で育てる作物の作業暦と栽培・出荷の資料を読む。種まきから収穫までの仕事を並べ、品質を保つ工夫を季節や届け先と関係付ける。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。収穫だけが仕事という説明には苗づくりや日々の管理の記録を示す。全国どこでも同じ作業日とはしない。

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。農地へ無断で入らず、農薬や農機に触れない。試食は必須にしない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○地域の作物の問いを立てる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	3～4	○季節ごとの仕事を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	5～6	○栽培と出荷の工夫を比べる。	知①・知②（活動の観察・記録）
第4次	7～8 （本時を含む）	○農家と地域の関わりを説明する。 ○記録を根拠に、中心の問いへの自分の説明を確かめ直す。	思①（記録を用いた説明）・態①（説明を見直す過程）

6 本時の指導（8／8（配当案））

（１）本時の目標

「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」について、資料や記録のどの事実を根拠にしたかを示し、自分の考えを説明できる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○本時で使う記録を見て、問い「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」を確かめる。 【めあて】根拠の記録を示して、自分の説明を確かめ直そう。 ○一人で今の考えと、確かめたい点を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・この記録を使って、自分の考えを説明したい。 ・前の考えと合わないところがある。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・農地へ無断で入らず、農薬や農機に触れない。試食は必須にしない。
展開 （ 分）	○これまでに調べた資料を使って、次の比較と整理を行う。地域で育てる作物の作業暦と栽培・出荷の資料を読む。種まきから収穫までの仕事を並べ、品質を保つ工夫を季節や届け先と関係付ける。 ○「どの部分を比べて、そう考えましたか」 ○根拠の箇所を指し示して説明し、相手の説明との違いを聞く。 ○資料から分かることと、まだ分からないことを分けて書き直す。 〈予想される児童の反応〉 ・収穫の前にも、季節に合わせて続けている仕事がある。 ・この記録のここが、そう考えた根拠になる。	・収穫だけが仕事という説明には苗づくりや日々の管理の記録を示す。全国どこでも同じ作業日とはしない。 ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思① 「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。（個人の記録と説明、交流後の修正理由から見取る。）
まとめ （ 分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】地域の農家は土地や季節に合わせ、生産や出荷の工夫をしている。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・最初の説明に、根拠にした記録を書き足せた。 ・まだ確かめていないところは、次の問いとして残した。	・まとめは得られた記録の範囲に限定する。予定どおりの結果が出なければ条件と方法を見直し、実測結果を作り替えない。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

(3) 板書計画

上段に問い「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」。左に児童の最初の考え、中央に根拠として選んだ記録や資料、右に確かめ直した説明を置く。記録には対象・条件・時期を添え、同じ観点で比較する。下段のまとめは「地域の農家は土地や季節に合わせ、生産や出荷の工夫をしている」。確認できた事実と残った疑問を別欄にし、実測していないことを書き足さない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

